

発刊にあたって

歴史の流れに生きる私たちは、歴史を離れて明日を語ることはできません。先人の生きざまを垣間見、人々の生きた、ふるさとの大地の在りようを尋ねることは、期せずして愛郷の心を育むものであり、愛郷心こそ、より懐しくより住みよい郷土の建設に、欠くことのできない基盤であろうと思えます。ここに待望の「熊野町史通史編」の完成を見るに至り、委員一同重責を果し得た喜びをかみしめております。

昭和五十五年（一九八〇）町史刊行の事業に着手して以来、七か年の月日を費して本編の完成を見ましたが、その間、文化財保護委員の方々、その他町内の多くの方々から資料提供をはじめとする絶大な御協力を賜わり、お陰をもって読みごたえのある町史となったことを、深く感謝しております。

町史刊行委員会としては、各方面の協力により資料を広範囲にわたって収集し、これを総合的に検討して広く現代に生きる課題を明らかにするとともに、町民に親しまれる町史の内容とすることにとめました。特に、日本国憲法の理念、すなわち基本的人権と国民主権、平和主義の精神によって町史全体がつらぬかれることを編さんの根本的な方針としました。町政の課題において、同和対策の基本方針が策定されてその行政責任が明らかにされていますが、刊行委員会においても、そうした課題

に町史が学問的に応えるものであると同時に、同和問題の解決に対し町民の積極的なとりくみがすめられることを念願してやみません。なお、今回集録しえなかつた多くの貴重な資料は後日、続編として刊行したいと考えています。

とまれ、よりよい明日の熊野町を築く礎石の一つとなりますようお願いをこめて編さんされた本書が、町内外の方々に広く読まれることを希望してやみません。

おわりに、付記の先生方が、強力な調査執筆陣を編成して本稿を完成してくださったことに衷心より感謝申しあげます。

昭和六十二年六月

熊野町史刊行委員会委員長 福岡 孝 義